

今回の授業は、以下の参考文献を基にして作成しました。

【参考文献】

・坂井豊貴(2015)『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か-』 岩波新書

・坂井豊貴(2016)『「決め方」の経済学-「みんなの意見のまとめ方」を科学する-』 ダイヤモンド社

・宇野重規(2020)『民主主義とは何か』講談社現代新書

・ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド(2019)『FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経 BP

・Nurmi, H. (1992) “An assessment of voting system simulations,” *Public Choice* 73, pp.459–487.

これから、レポート課題に取り組んでもらいます。

問題1. 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

野球の試合の帰りに、チームメイトの9人は、おなかがすいたので、おいしいと評判の(食べ放題ではない)焼肉屋へ食べに行った。9人のうち4人はたくさん食べ、別の2人は普通の量を食べ、残りの3人は少ししか食べなかった。食事代を支払うときに、大食いした4人が割り勘すること(代金を等分すること)を主張した。意見がなかなかまとまらなそうなので、多数決で決めようということになった。少量しか食べなかった3人は、大食いしたのに割り勘にしようと言うことに腹をたてたので、大食いした4人が全額支払うべきだと提案した。この提案と代金を支払いたくない普通の量しか食べなかった2人の思惑が一致し、多数決の結果、5対4で大食いした4人が食事代を全額負担することに決まった。

(1)このようなケースを単純な多数決で決定することについて、どこに問題があるのだろうか？またなぜそのような問題が発生するのだろうか？

400字以内で説明しなさい。

(2)もし、あなたがこのようなケースに直面した場合、どのような方法を用いてチームメイトの意見をまとめるべきだと考えますか？400字以内で説

明しなさい。

問題2. 授業の中の「Ⅲ. 多数派の意見って？－多数決のいろいろなやり方－」のところで、多数決(単純多数決)、決選投票付き多数決、総当たり戦(コンドルセ・ルール)、ボルダ・ルール of のいずれを集団の意思決定の方法として用いるかに応じて、集団の意思として決定される選択肢が異なる可能性があることを学んだ。これを基にして、以下について答えなさい。

授業の「Ⅲ. 多数派の意見って？」で扱ったケースのような、3つ以上の選択肢がある、集団の意思決定の具体的な例を自分で設定し、多数決(単純多数決)、決選投票付き多数決、総当たり戦(コンドルセ・ルール)、ボルダ・ルールの中で、あなたはどれが一番良いと考えるか論じなさい。

具体的な例を設定する際、その状況を説明するとともに、配布資料のスライド 24 中にある表のように、選択肢、当事者の人数、選択肢に対する当事者の順位付け、その順位付けをする者が何人いるかの4点が明確に分かる表を解答用紙の中の図表用スペースに必ず作成しなさい。なお、解答用紙の裏面は必要に応じて使用しなさい。